

株式会社パスコ 関連記事情報

掲載紙：日刊建設工業新聞 掲載面：2面

発行日：2010年11月5日

パ ス コ

全国10拠点にMMS配備

公共測量受注拡大狙う

パスコは、モバイルマッピングシステム（MMS）を活用した道路空間情報基盤整備事業の本格展開に乗り出す。昨年度末にMMSを用いて大阪府豊中市の道路台帳更新作業を実施、この作業が公共測量として認められた実績をテコに自治体が発注する公共測量業務の受注拡大を目指す。同社は本年度末までに提携企業を含めて全国10拠点到MMSを配備する計画だ。

MMSを本格的に活用することにした。既に豊中市を含め9件の受注実績があるという。

同社によるとMMSを使うことにより道路平面図作成のコストが10%削減でき、現場作業も30%短縮できるとしている。コストメリットに加え、精度の高さやデータ加工の容易さを売りに受注拡大に乗り出す考えだ。

本格活用にあたって同社はMMSを全国10拠点到配備する。具体的には北海道、東北、関東、北陸、中部、関西、中国、四国、九州など全国各地に配備する。自社で解析などの設備がなく作業が難しいエリアについてはMMS事業を対象に新たに提携を結び、ネットワークを構築する。既に北陸などで地元企業と提携を結んでいる。MMS搭載車両の自社保有台数も現行の2台から7台程度に拡大、海外のグループ会社を通じてフィンランドをはじめとする欧州市場での受注も狙う。当面、年間で30億円の受注を目標に営業展開していく計画だ。

MMSは、車両に高精度の計測システムを搭載し、走行しながら位置情報を計測する技術。同社は、三菱電機が開発したMMSを採用している。三菱電機のMMSは、3台の衛星利用測位システム（GPS）と慣性姿勢計測装置（IMU）、距離計（オドメトリ）に加え、自動誤差予測機能（カルマンフィルター）を搭載し、これまでのシステムに比べ正確な位置姿勢を計測することが可能だ。

パスコは現在、このMMSを搭載した車両を2台保有、主に関西エリアで活用している。昨年10月に豊中市の道路台帳更新作業にMMSを採用、同市の協力を得て「豊中市MMS作業マニュアル（案）」を作成、このマニュアルに基づいて更新作業を実施した。

MMSで計測したデータで作成した成果品を日本測量協会測量技術センターが実施する成果品検定で検定した結果、公共測量として同社のMMSが活用できることが認められた。同社はこの成果を受け、公共測量分野で